

ナルニア国物語

魔術師のおい

12

C・S・ルイス

土屋京子・訳

玉樹庵・画

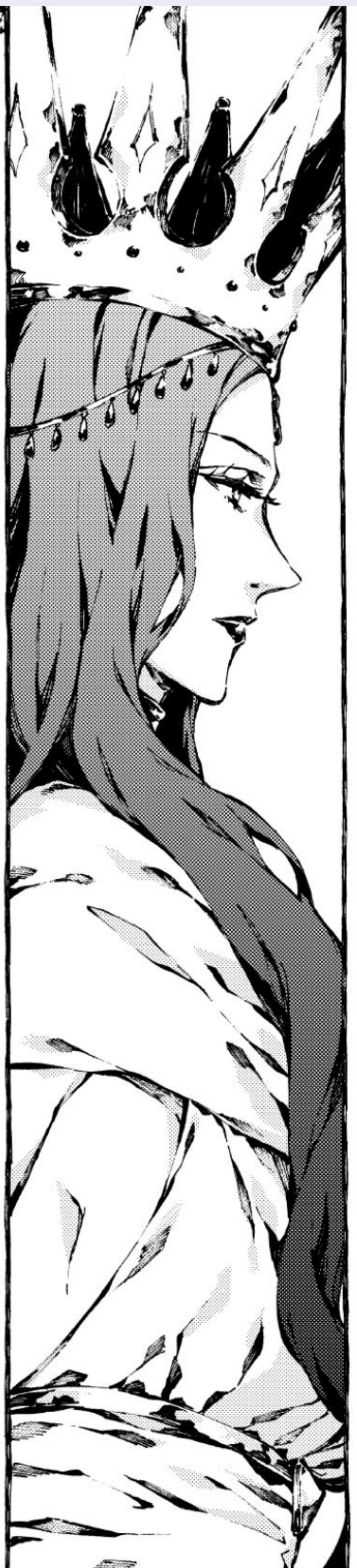
(光文社古典新訳文庫刊)

裏切りなど
ゆめ考えるで
ないぞ

さあ

行け





…世界の
あいだの森での
ことについて

何も言わないの
だろうか……



それとも

あの静かな
場所のことを
まるつきり
記憶しておけない
質なのか……？



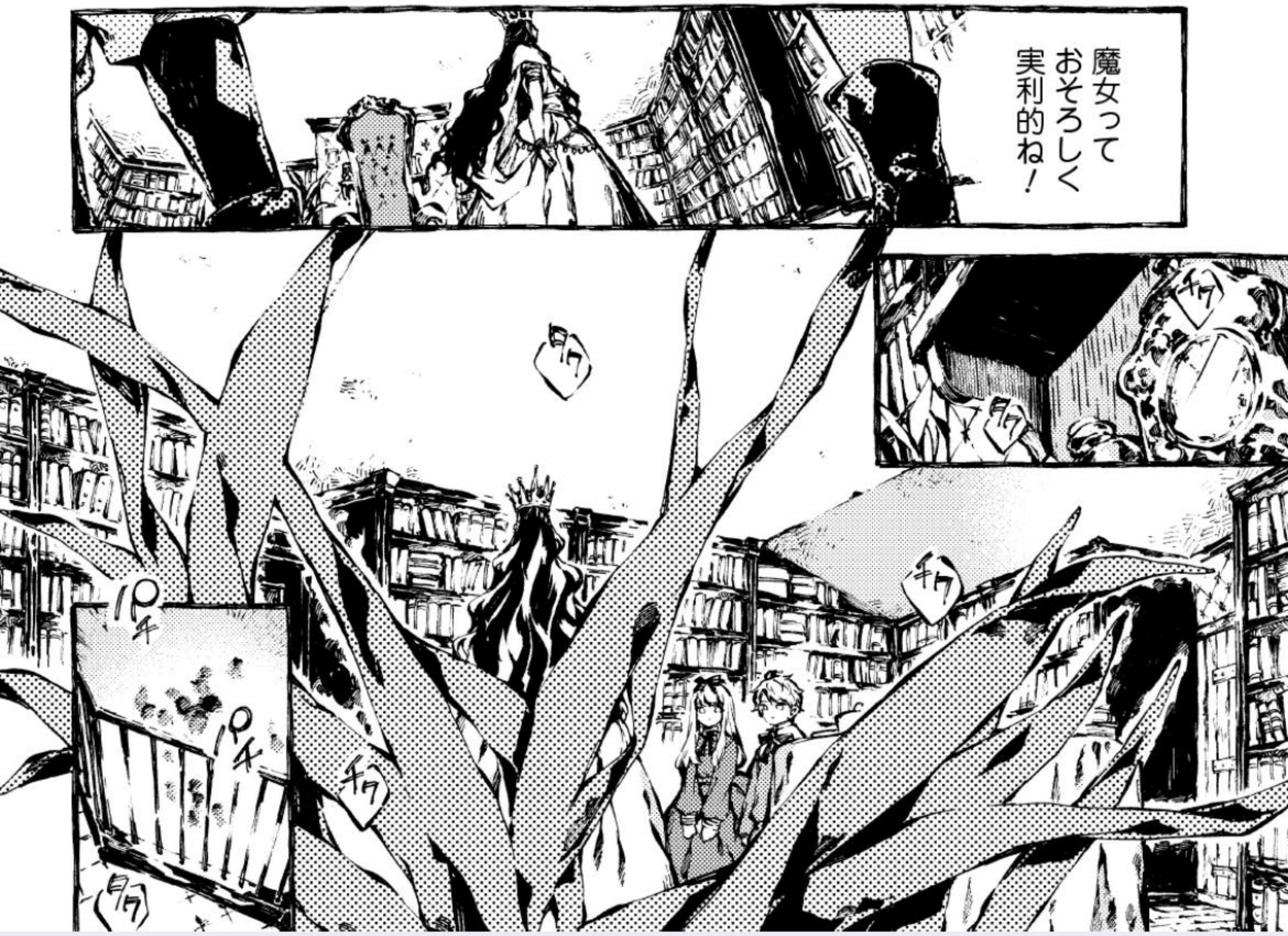
……この女

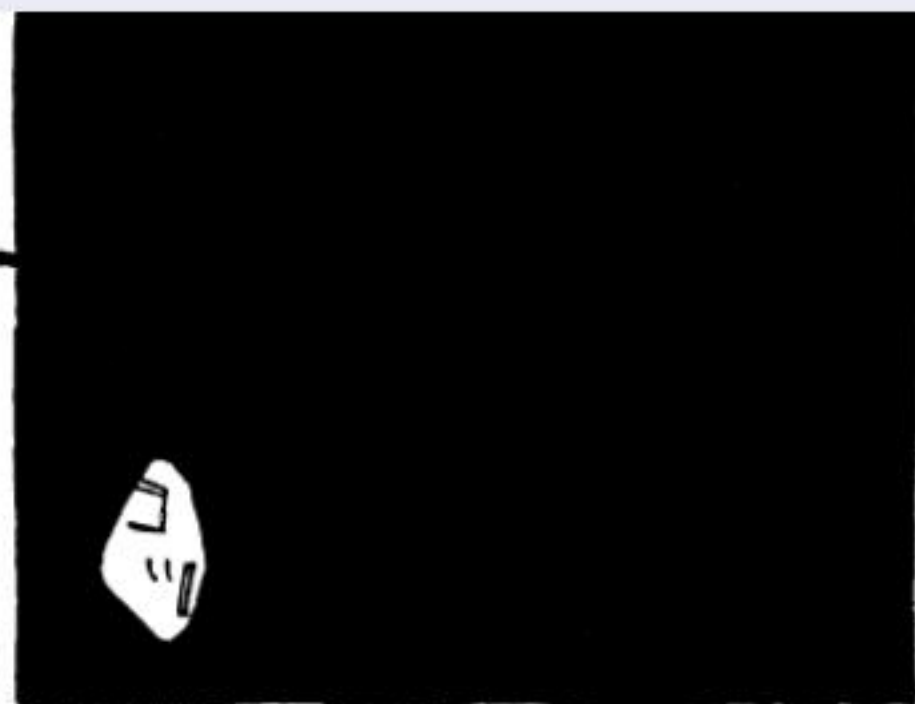
結局今まで
私にいつさい関心を
示さなかったわね！

ケタリーさんを
手に入れたからか

今では
ディゴリーにすら
興味がないみたいだし

魔女って
おそろしく
実利的ね！





あの
老いぼれめ

何をして
おるのじゃ



鞭を
持ってくれば
よかったわい





わたし
家に
帰らなくちゃ

ずいぶん
遅くなっちゃった
きっと
叱られるわ



ね

たのむから
できるだけ
早くもどって
きてよね





あいつが
うちにいるなんて

ぞっとするよ

これからどうするか
計画を立てないと



それはもう
伯父さんの
責任でしょ



だいたい

こういう
ややこしいことに
なったのは

伯父さんの
魔法のせい
なんだから

それでもさ

また来て
くれるだろう？





こんなピンチに
ぼく一人残して
帰っちゃうなんて

ありえないよ

わたし

トンネルを通過して
帰るから

……

……ちっ



それが
いちばん早いし

また来て
ほしいんなら

ごめんなさい
ぐらい
言うべきじゃ
ないの？

ごめんなさい
だって？

女の子って

これだから
わかんないんだ！

ぼくが
何をしたって
いうの？

あら

べつに何も

ただ

あの蠟人形の広間で
わたしの手首を
もげそうなくらいに
ねじっただけよ

あと

ベルをハンマーで
打っただけ

ひきょうな
悪ガキ
みたいだね

バカみたいに



わかったよ

ごめんなさいって
言うよ

蠟人形の
広間でのことは
ほんとうに
悪かったと
思ってるし



さ
ごめんなさいって
言ったよ

だから
たのむよ

もどって
きてよね

もどってきて
くれないと

ぼく
すごく
困るんだ



あんたに何か
起こるって
わけじゃ
ないでしょ



それから

あの森で
家に帰る水たまりに
飛びこむ前に

あんたが後ろを
ふりかえったせいで
あの女がくっついて
きちやっただけ

それだけ
ですけどね

はあ！

灼けた
鉄の椅子に
すわらされたり

ベッドに氷を
入れられたり
するのは

ケタリーさん
なんだから

ちがう？

そういうこと
じゃないん
だよ

ぼくが
心配してるのは
母さんのこと
なんだ

あいつが
母さんの部屋に
はいつていったら
どうなる？

母さん

驚いて死んじゃう
かもしれないん
だよ？

…わかったわ

ああ…

そういう
ことね



仲直り
してあげる



また
来てあげるわ



来れたらね



ホー...



でも

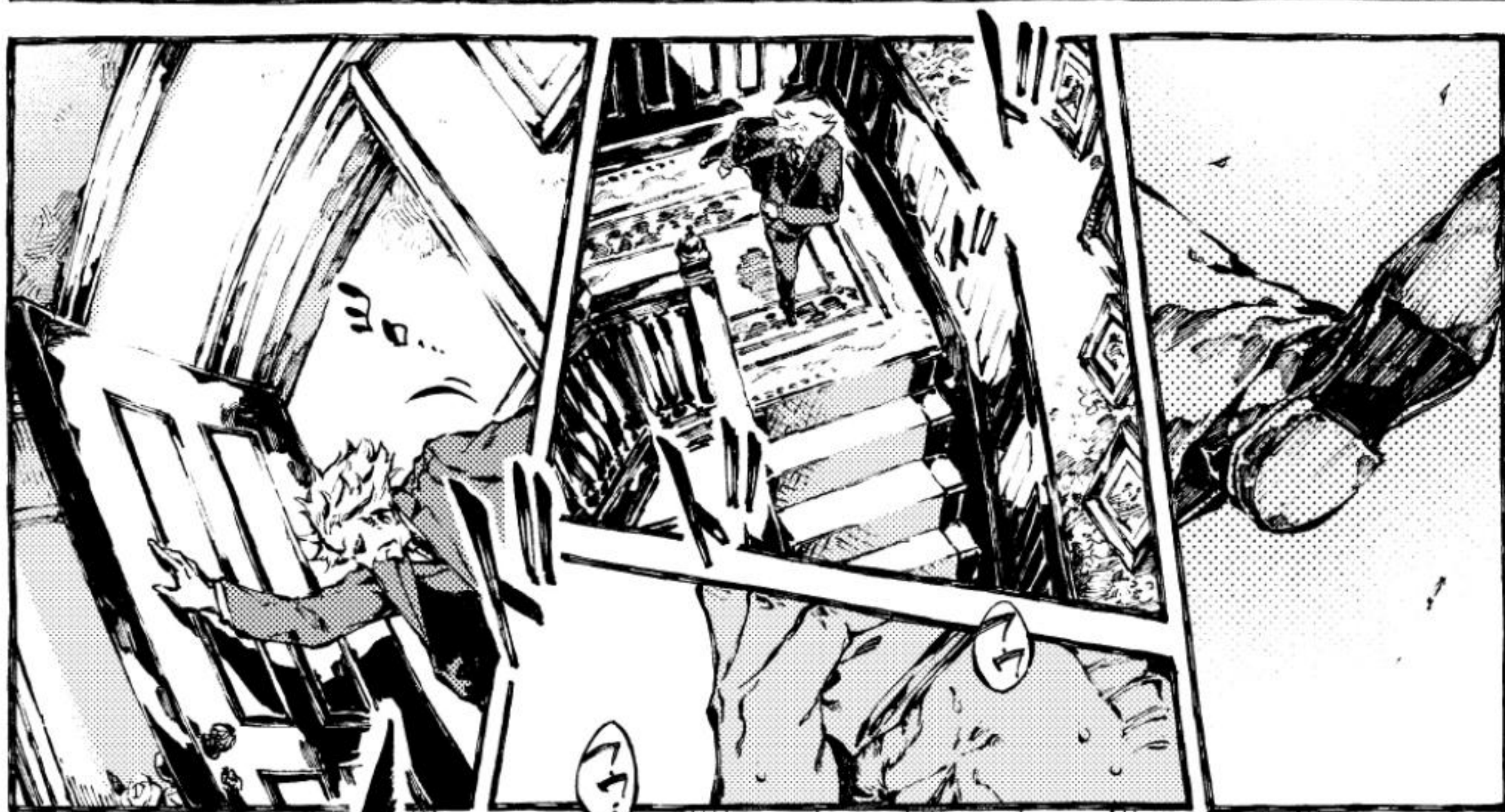


とにかく

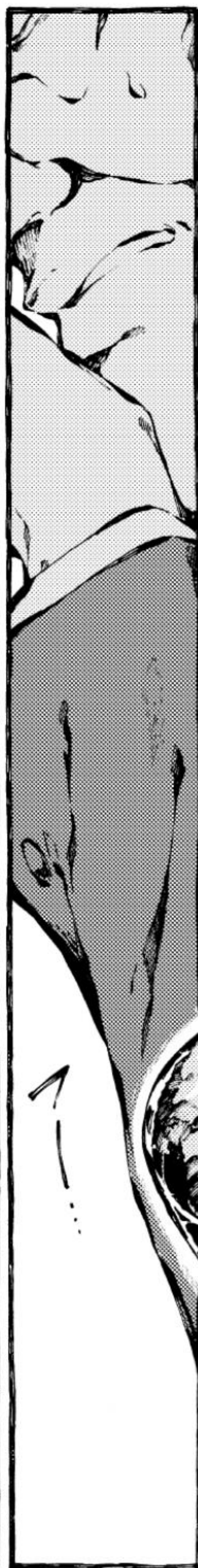


もう
行かなくちや









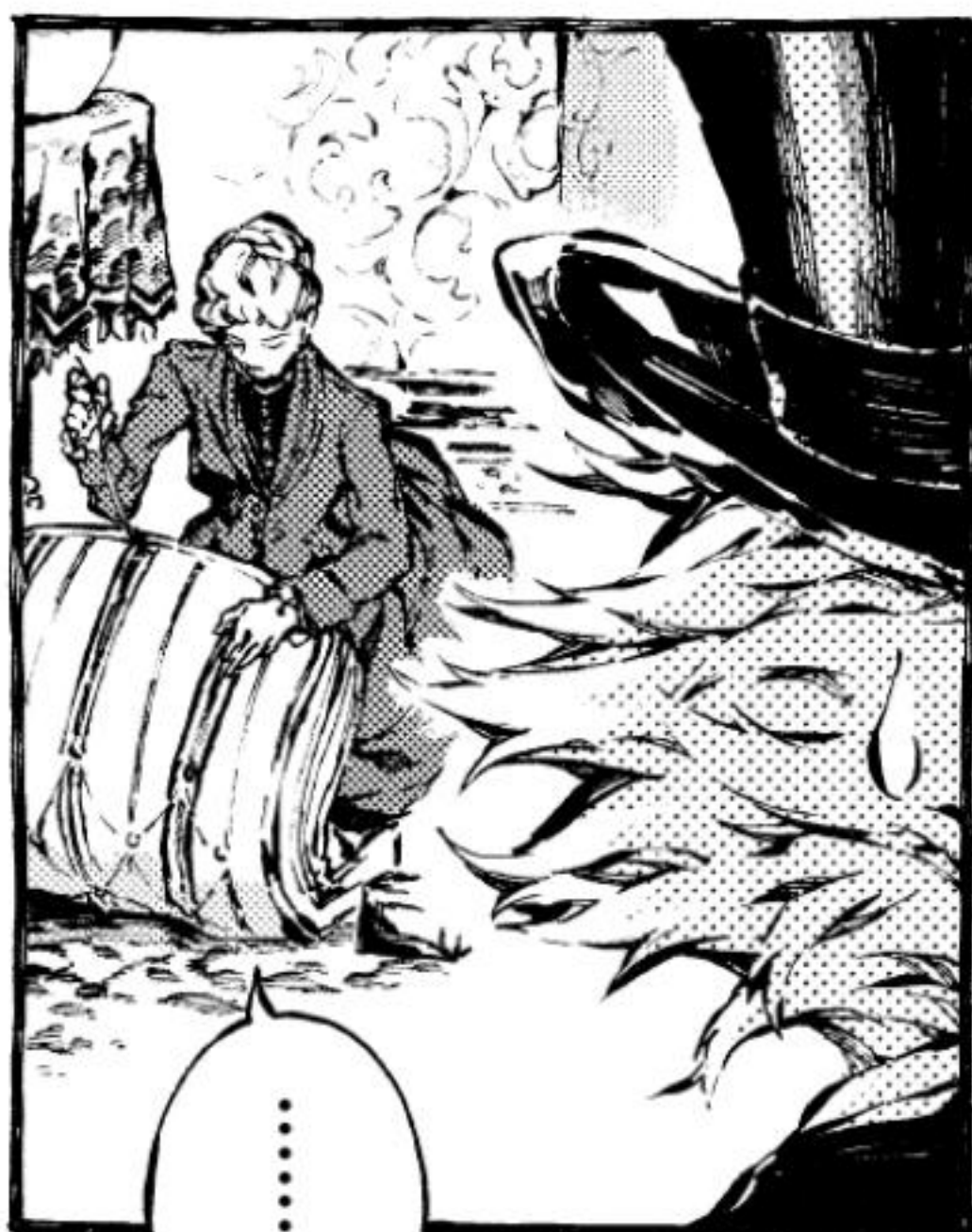


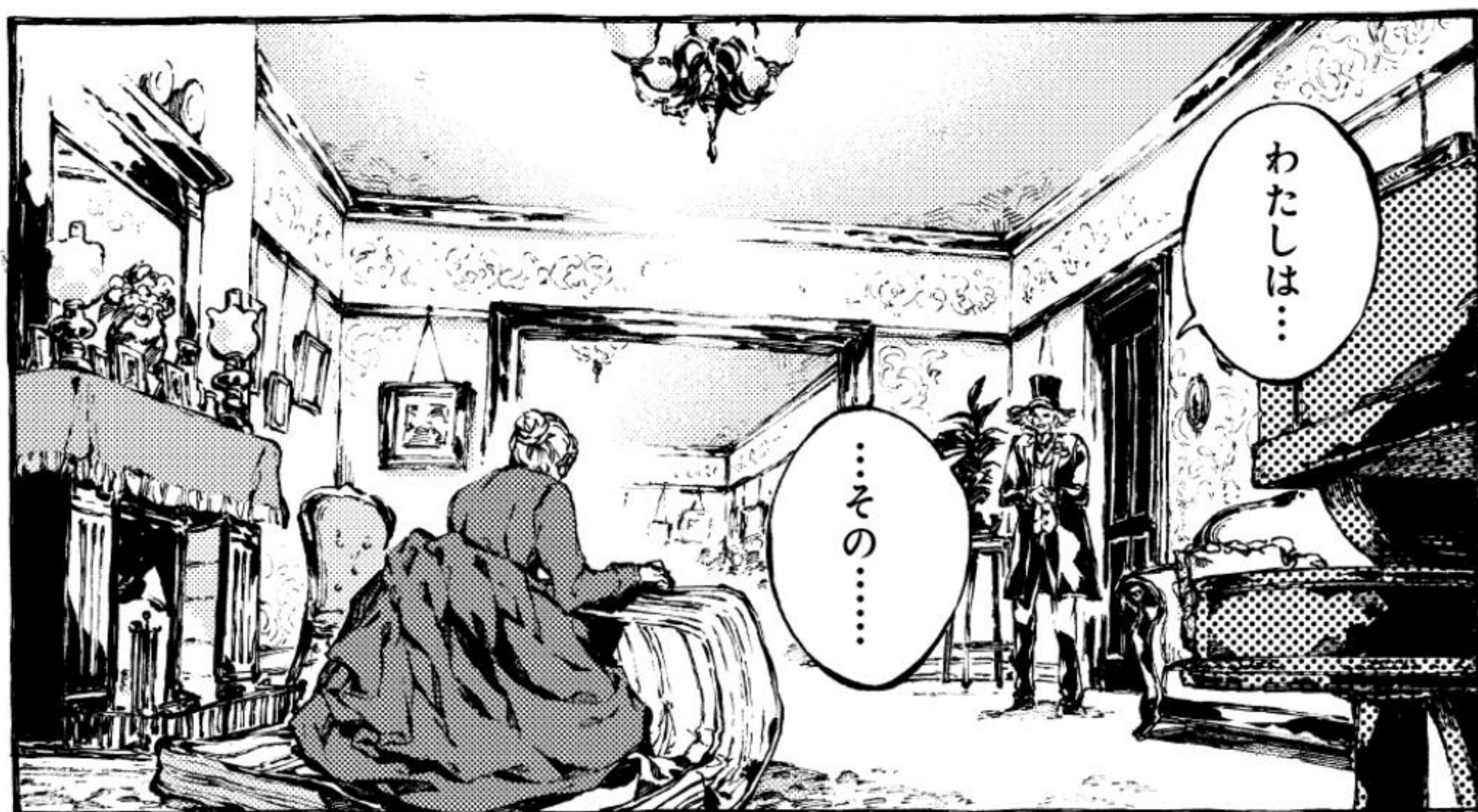












兄さんにお金は
貸しませんと

何度言っているか
しれないでしょう

なあ

聞き分けの
ないことを
言わんでおくれ

レティティア
ちゃんよ

きわめて
重要な用件
なのだ

金を用立てて
くれないと

わたしは
ひどく困った立場に
追いこまれて
しまうのだよ

兄さん

わたしに
お金を無心する
なんて

恥ずかしいと
思わないの
ですか

「レティちゃんに
代わって
財産を管理して
あげよう」
などと言いながら

仕事
ひとつせず

ブランドーと葉巻の
出費ばかりを
重ねて

うちを
三十年前より
ずいぶん貧乏に
してくれたのは
どこの誰かしらね

レティ
ちゃんや！



あんたには
わからんかも
しれんが

きょうは
予定外の出費が
かなりかきみそう
なのだよ

ちよつとした
接待をしなくちや
ならんのでね



さ
たのむよ



めんどうな
ことを言わない
でくれ



…接待って

いったい
誰を接待
するのです？

あー…

……その



非常に高貴な
お客人が

たつたいま
到着なされた
ところなのだ



高貴な
お客人が

聞いて
あきれますよ!



この一時間



玄関のベルは
一度も鳴ってないじゃ
ありませんか







奴隸

おい



チャリオット
ひとつに

何時間
待たせるのじゃ？

つづく